

3学年の保護者の皆さまへ

進路決定を控えた我が子への接し方のヒント

朝夕の冷え込みが感じられ、初霜のニュースが流れる季節となりました。先月の高校説明会では、欲しかった情報を手にすることができたでしょうか。進路決定を控えたお子さんをもつ保護者の皆様にとっては、一層落ち着かない時期を迎えます。心配でたまらないという気持ちが先に立って、つい「もっと勉強しられんか。」「勉強せんたら受からんよ」という言葉が出てしまい、「うるさいなあ。分かるとるよ。ほっといてくれ。」という我が子の反撃を受け、我が子とどう関わればよいか戸惑うことも増えてきているのではないのでしょうか。



この時期は、本人も希望と現実の狭間で動揺し、精神的にも不安定になりがちです。特に、親が直接口に出していなくても、親の期待に応えなくてはならないというプレッシャーを子供自身が強く感じ、それに応えられない自分に一層自信をなくしたり、また、本人自身が現実に十分目を向けようとせず理想ばかりを求めていたりする場合があります。そんな我が子に、親としてもどのように声をかけたらよいか分からずおろおろしてしまい、本人を一層いらだたせる結果になってしまうこともあるようです。

でも、こんなときこそ、親と子が向き合いじっくり話し合う中で、お互いの考えや生き方を理解し合い、親子の絆を強くするチャンスと捉えてみてはいかがでしょうか。今までは、「ごはんは?」「こづかい?」と一言だけで終わっていたお子さんも、人生で初めての進路選択の時期を迎えて大きな不安を抱えています。こんなときには、背後でそっと温かく見守り、自分のことを真剣に考えてくれる親が側そばにいて感じるだけで試練に立ち向かう大きな力となるはずです。そして、膝を交えて話し合う中で、親の大きな愛情や、親の考え方や生き方に触れ、今までよりも親子間の心理的な距離がぐんと近づくはずです。もちろんそんな簡単に言葉には出ませんが、きっと親の思いは伝わっているはずです。

そこで、進路決定を控えた我が子に具体的にどのようにアドバイスすればよいかヒントになればと思い、ご参考までに、次の3点を挙げてみました。



1 最終的には、子供自身の力で自己決定させ、責任をもたせる。

子供の人生は、子供自身のものです。ここで選択した進路については、子供自身がその責任を負って、これから先の人生を歩いていくのです。ですから、親としての思いや願いを伝えたり、ときにはご自分の体験を踏まえて助言したりすることはもちろん大切ですが、最終的には、子供に自分の意志で進路決定させてあげてください。

つい、我が子が苦勞しなくても済むようにという親心から過度な期待をかけたり、無言の圧力をかけたりしがちですが、子供が自分の力を伸ばせたり、自分のモチ味を発揮できたりする進路を見付けることが、一番大切です。

2 本人が自分の力で進路決定していく過程を平常心で、辛抱強く見守る。

親の心配もなんのその、あっけらかんとしている我が子に焦りを感じ、かえって衝突してしまったり、逆に心配するあまり、あれこれ身の回りの世話を焼いたり、腫れ物に触れるように接したりするのは、かえって逆効果です。この機会を我が子が一回り成長していくチャンスと捉え、今までと変わらず平常心で接し、辛抱強く見守りましょう。子供にとっては、親に緊張されると一層負担に感じ、落ち着かなくなるものです。

3 バランスのとれた食事と規則正しい生活のリズムなど、健康面での配慮を

これからの時期は寒さから風邪をひいて体調を崩したり、初めての経験への不安から精神的に不安定になったりすることもあります。ご家庭で「食事は毎回きちんと摂ろうね。」と声をかけたり、「睡眠不足にならないように、生活のリズムをしっかり整えてね。」と健康管理にも目が向くようにしたりなどの言葉かけをしてください。

大切な時期だからこそ、自分の身体は自分で守るように健康管理することが重要であることを学ばせるよい機会です。



進路決定に向けて、最近の子供たちの様子も変化してきています。学習に向かう姿勢にも今まで以上に真剣さが感じられ、進路に関する情報を自分から進んで収集したり、休み時間や放課後にも質問に来たりする生徒が増えています。卒業まであと4か月あまりになりましたが、子供たちが無事巣立ちの日を迎えることができるように、親と教師が共に手を携え、成長を温かく見守っていきましょう。

お子さんのことで相談がある方は、担任・学年の先生方の他に、相談室でも相談を受けています。いつでもご連絡してください。

射水市立大門中学校 Tel52-0116 小竹カウンセリング指導員・黒崎スクールカウンセラー